

ずるのもまた大事な改良して御座りませう。酒の社會を害する
 こと、實に夥敷として御座りませう。煙草の害もまた随分少
 からざる事、御座りませう。然しながら私の考に、禁酒禁煙
 の抑も未だまだその上に弊害の根本たる者があらうと存じま
 す。若しも世の弊風を改めやうとせらば先づその根本から改
 めてかゝらなければなりません。もしその根本を取除けばろ
 の枝に結んだ様々の悪弊、自ら消滅する道理で御座ります。
 さてその根本たる弊害どの何であるかとされば、一夫多妻或は
 蓄妾の風が即ちその根本で御座ります(喝采)ナせなければ若し
 一夫一婦の教が行はれなければ男女の關係が宜に適しません。
 男女の關係が宜に適はなければ決して眞の文明社會を見るこ
 とは出来ません。ナせなければ夫婦の關係、人間道徳の基礎で
 若し夫婦の間柄が宜に適はなければ親子の間柄も宜に適ひま
 せんし親子の間柄が宜に適はなければ一家が治りません。然
 し一家が治らなければ家族が集て出来た社會が治まらう筈は
 御座りません。その故に今社會を改良するに最も必要なこと
 は一夫一婦の教の普く行はるゝこと、御座ります。キリスト教
 の即ち此教を主張する者、一婦多妻の貴賤貧富の差別なく誰
 ても彼でも平等に之を嚴禁いたします(喝采)ソウして此が即

ちキリスト教の儒道や佛道と大に違ふ所の、又社會を改良
 する勢力ある所以と云うります。然し左様申せば、一夫一婦の
 教の何れもキリスト教に限ること、ない。儒道や佛道の教、兎
 も角も實際一夫一婦は即ち古より我が日本國の風で妾を持つ
 者は眞の万人に一人か千人に一人に過ぎないといふ人があるか
 も知れません。成程ソレニ違ひありませんが、今若し日本國中の
 人を上中下の三等に區別して其中孰れに妾を蓄る者が最も多
 數であるかと尋ねたら如何で御座りませうか。上等にも中等に
 も矢張萬人に一人の割合だといふことが出来ませうか。上へ
 往けば往くほど其割合が多くあるではありませんか(謹聽謹
 聽)ソテ見れば今の一夫一婦の風、此れが眞理だから守ると
 いふ譯で、いなく實に止を得ざるに出たこと、申さなければあ
 りません。若し今、日本中の人に各二三人の妾を蓄ふる力
 があつたら、ソレで御座りませう其結果、實に思ひ遣られます
 (喝采)又我々の最も不思議に思ふの、世間で妾や權妻といふ
 者を何とも思はぬこと、御座ります。甲子の妾を蓄ふることを
 何とも思はず婦人も又人の妾とあることを何とも思はず甚だ
 しき、妾を蓄ふること、を以て榮譽のやうに思ふ者が御
 座りますが、此の實に心外千萬の事、御座ります(喝采)未完

○東京婦人矯風會大會演說録

井深樞之助君演說(基督教と婦人の地位)筆記(二)

又こゝに申さねばならぬ事が御座りますがキリスト教で申す一夫一婦といふことの公然さへ一人の妻を持って居れば内證ではドウいふ事をしても苦敷ないといふこととて御座りません。陰陽内外の別なく神の前に在て眞實に一夫一婦の道を守ることで御座ります。一夫一婦と申しても此處に雲泥の違が御座ります。儒者の教にも妻が夫に對して貞操を守るべきことの随分喧しく説てあるやうで御座りますが夫が妻に對して貞操を守るべきことはトント説てはいやうで御座ります(謹聽謹聽)然しキリスト教に於ては夫たるものも妻たるものと同様に貞操を守るの義務あることを教へます。此義務に於ては決して男女の區別の御座りません。雙方共に貞操を守るの義務ある者で御座ります。然し是迄の考へは妻たる者の必ず貞操を守らなければならぬが夫の必ずしも守るに及ばず妻が貞操を破れば忍地離別されるけれども夫が放蕩をしたり或は妻を蓄ひても妻は何ともいふことが出来ず只出来ぬのみが彼れ是れいふのの反て悪いことになつて居ました。ナント無理の教

ての御座りませんか。ナント不都合なことで、御座りませんか。此の如き風が行はれて居る中、決して婦人が正當の地位を占め、眞正の幸福を受けること、出来ません。又是から起る所の弊害不幸が何程だか知れません。キリスト教の即ち此無理壓制を取除んとする者で御座ります(喝采)。

第二に、聖結婚の教即ちキリスト教に於ては、結婚を以て神の定めたまふた律法とする事、御座ります。一夫一婦の教の大切なことの前に述べた通り、御座ります。一夫一婦の教の妻を持ち、又の妻を置くこと、いせん。若し何時でも勝手次第に妻を出して他の女を娶ることが出来て、一夫一婦の教の何の役にも立ちません。自分の氣に入らぬと云つて、妻を出し、子が無いと云つて、自ら自分の氣に入つても、両親の氣に入らぬと云つて、出したらドッとして、一夫一婦の教が立ませうか。誠に耻しいことながら、恐く、世界中に我邦のやうに離縁の多い所、ありません。其の兎に角に、今日我邦に於て、離縁の造作あること、誰も能く知居ること、心ある者の常に愛へ、且、顧る所、御座ります。然れば、此惡風を改めるのも、今日の一大急務、て之を改るに、矢張りキリスト教の力に依らなければなりません(喝采)。

曾て或人がキリストの許へ来て、「人の何の故に係らず妻を出しても支障御座りませんか」と問ふた時に、キリストの之に答へて、「元始に神の人を男女に御造りされた故に、人が夫婦に於れば最早二でなく一體である神が合せ給ふたものを、人が離すべき筈の無い。姦淫の故であくして妻を出して他の女を娶る者、姦淫を行ふもので、其出された婦を娶る者も、又姦淫を行ふものでありと仰せられました。是が即ちキリスト教の結婚の道、御座ります。キリスト教に於ては、一旦夫婦にあつたらに、姦淫の外に、たどひ如何様なことが出来ても、決して離別することを許しません。尤もキリスト信徒の其代りに妻を選ぶのも、最も注意して、決して輕々しく婚姻の致しません(未完)。